

第2部(2) 沖縄の振興・発展に向けた社会 資本整備

観光客1200万人時代に対応できる社会資本整備を推進していくために、次に掲げる取り組みを実施しています。

▶沖縄の振興・発展に向けた社会資本整備

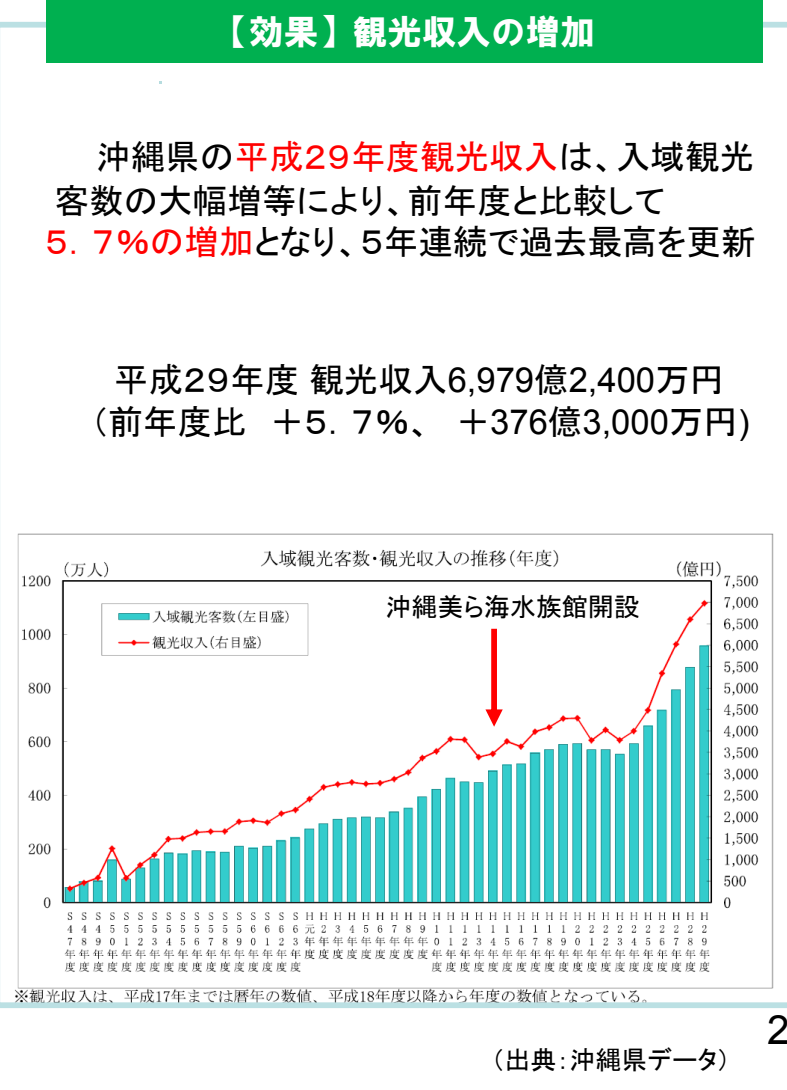
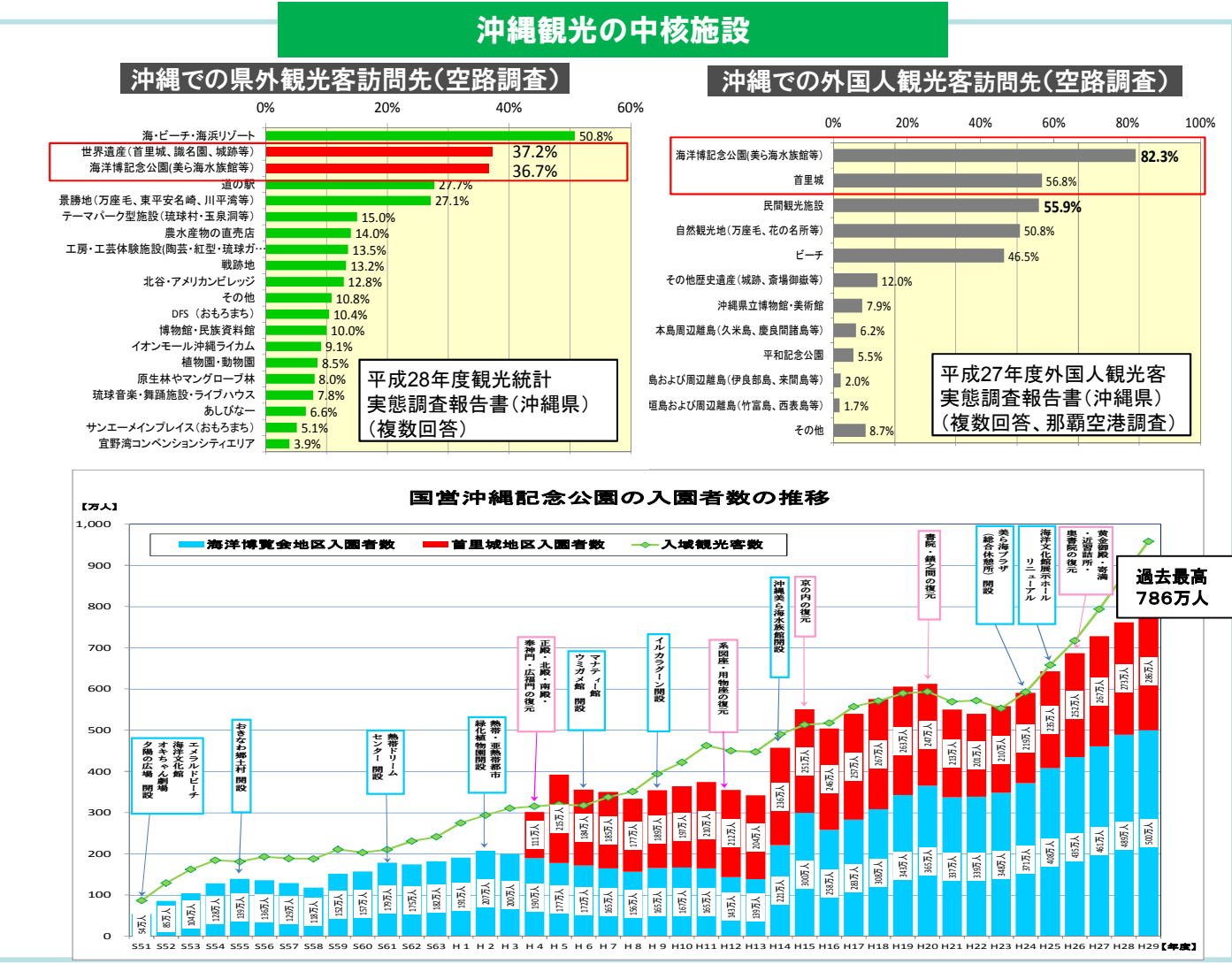
1. 観光資源の整備
2. 観光地等の地域支援
3. 交通網の整備
4. 情報発信の拡充

① 国営沖縄記念公園は沖縄観光の中核施設

○国営沖縄記念公園(海洋博覧会地区、首里城地区)は、**沖縄を訪れる県外観光客の約半数、外国人観光客の約8割が訪れる沖縄観光の中核施設**となっている。また、国営沖縄記念公園の平成29年度入園者数は約**786万人**人と5年連続で過去最高を更新した。

海洋博覧会地区は約500万人(前年度比 2. 3%増)、首里城も約286万人(前年度比 4. 7%増)と両地区とも増加

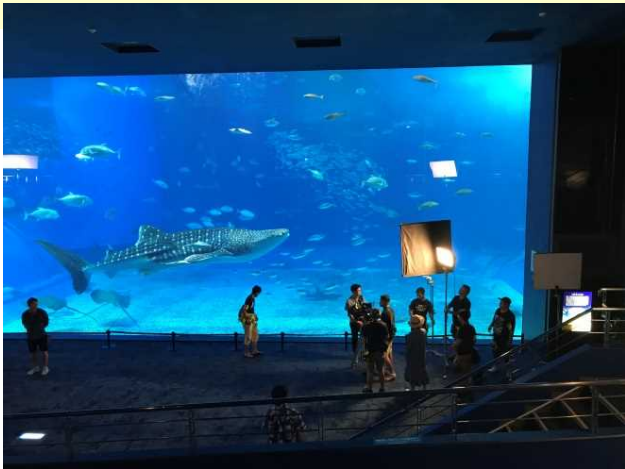
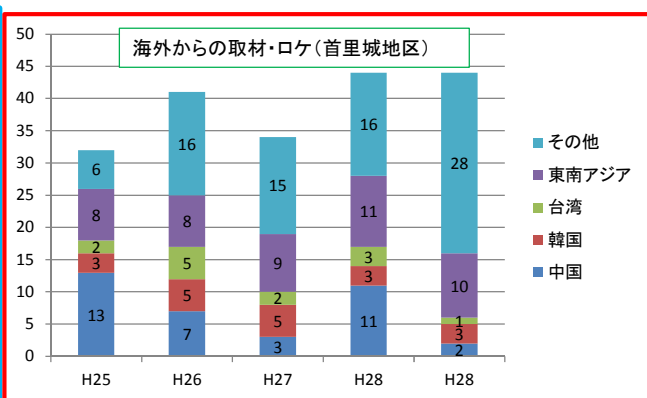
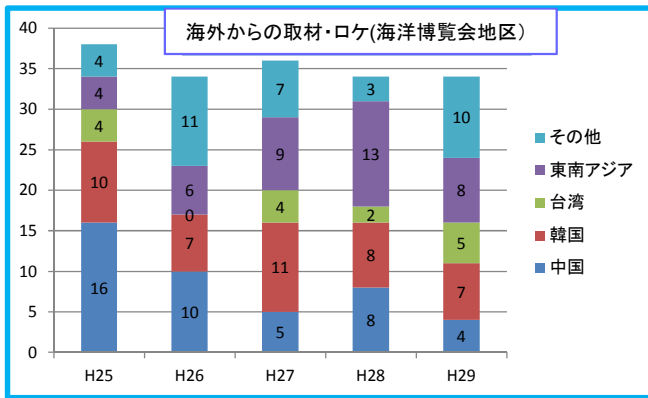
○**沖縄県の観光収入は、平成25年度から5年連続で過去最高を更新しており、国営沖縄記念公園は観光振興に貢献している。**



①沖縄観光の拠点として海外へ積極的にPR

- 国営沖縄記念公園では、沖縄の観光振興の中核として、OCVB(沖縄観光コンベンションビューロー)等と連携して、海外への情報発信を行っており、また、海外での紹介状況からニーズ等についても把握していきます。
- 海外からの取材、ロケを積極的に受け入れ、様々な海外メディアによる情報発信を通じて、アジア、欧米、豪州など諸外国での沖縄観光等のPRに貢献しています。

- 中国ネットドラマ「いとしのプリンス」
撮影：2017年6月2～3日
- タイの旅行誌「travl 2017年1月号 No.413」
発行：2017年1月
撮影：2016年9月29日
- タイの放送局Bright TV「Daisuki Japan」の番組収録
出演者が首里城公園城郭内を見学している様子や、レポートしている様子を撮影
撮影：2018年1月26日



中国ネットドラマの撮影風景(1)
(美ら海水族館)

沖縄観光の代表的な施設として、旅行系の情報誌に多数取り上げられている



中国ネットドラマの撮影風景(2)
(美ら海水族館)



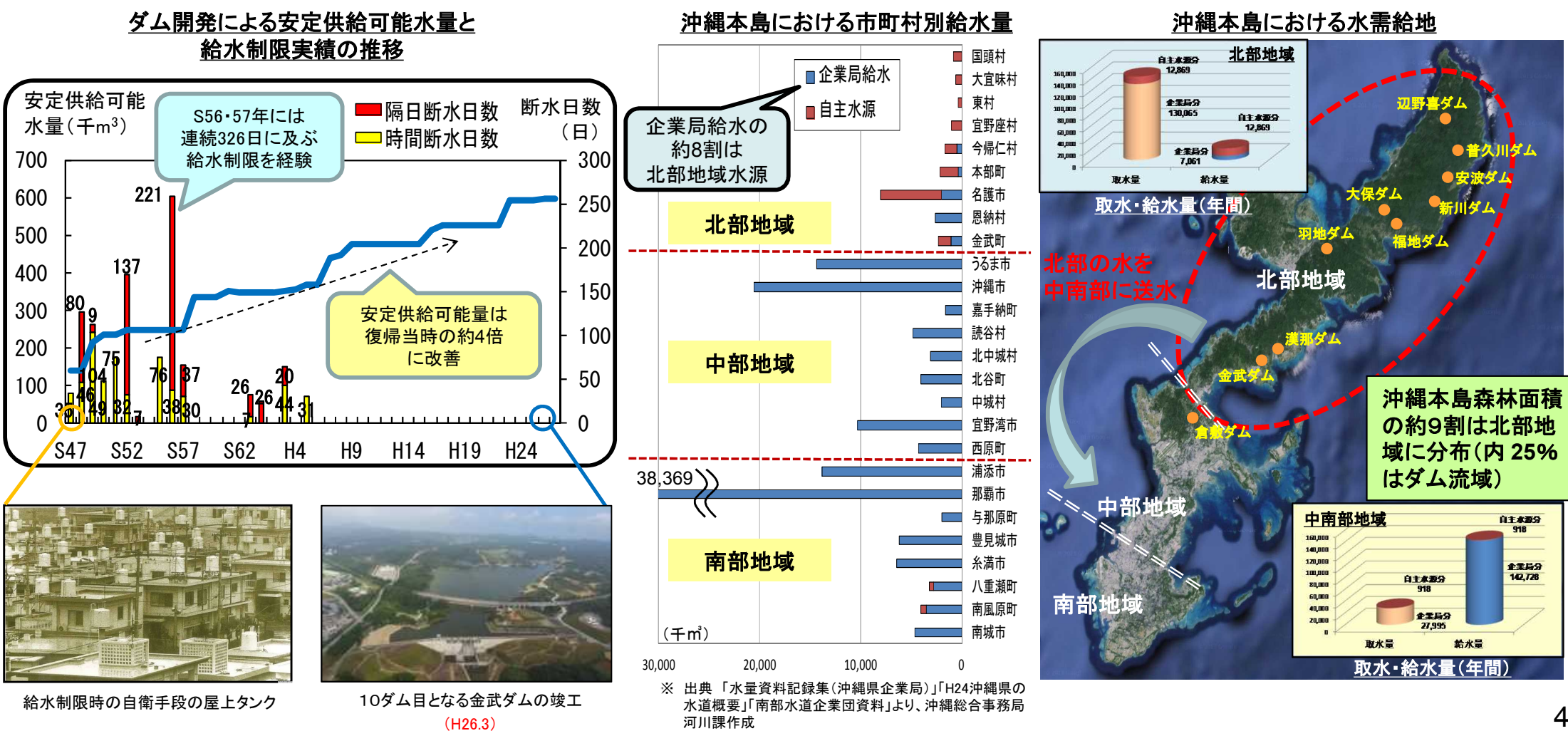
タイの旅行誌



タイの放送局Bright TV
「Daisuki Japan」の番組
収録風景(首里城地区)

1.観光資源の整備【沖縄県本島を支える北部地域の水源地】

- 多目的ダムが現在の水準まで整備される以前は、毎年のように給水制限(断水)が行われていた。復帰以降10ダムの建設を推進した結果、水事情は大幅に改善された。平成6年度以降は給水制限が実施されていない(H30年3月1日で連続給水満24年)など、沖縄県の経済発展、生活水準の向上に寄与。
- 水資源は主に北部やんばるのダムに依存している一方、消費地である中南部に人口及び経済活動が集中しており「北水南送」の状況。
- 沖縄の命の水を育むやんばるの水源地域の保全は、重要な課題。



※ 出典「水量資料記録集(沖縄県企業局)」「H24沖縄県の水道概要」「南部水道企業団資料」より、沖縄総合事務局河川課作成

2.観光地等の地域支援【沖縄北部ダムツーリズムの推進】

- 沖縄北部ダムツーリズムとは、ダムやダム湖における観光、エコツーリズムなどの水源地域の魅力ある活動。
- ダム毎に主要テーマを設定した管理施設メニュー、及びダム湖面等ダムエリア内でNPO等が実施するメニューをダムツーリズムとして整理・明確化。
- 水源地やんばるの自然やダム湖の魅力を活かした活動を通じて、森や水の大切さを広く認識してもらい、森や水を守るとともに、北部水源地の活性化を支援。



ダム名	主要テーマ	沖縄北部ダムツーリズム		地域圏の主なメニュー
		ダム管理施設メニュー	NPO等が実施するメニュー	
漢那	ダム施設見学 環境学習	①ダム堤体の見学(景観設計) ②ダム内部の見学 ③本ダム右岸の魚道見学 ④本ダム下流のマングロープ生態系 ⑤貯水池上流に隣接する第二貯水池(自然観察広場)		・道の駅ぎのぞ ・かんなパークゴルフ ・宜野座村立博物館 ・松田鍾乳洞 ・宜野座村の体験ダイビング
羽地	小学生の社会見学	⑥ダム資料館(沖縄の水資源他(小学生向け)) ⑦川遊び&川の生き物観察		・羽地民泊 ・名護城トレッキング
福地	野外活動と学習	⑧ダム資料館(沖縄の水資源(大人向け))	⑩ダム湖での自然観察船(ゴンミキ号)の運航(東村ふるさと振興株式会社が運航) ⑪ダム湖でのカヌー体験(東村ふるさと振興株式会社が実施)	・山と水の生活博物館 ・村民の森つつじエコパーク ・沖縄やんばる海水湯水発電所 ・慶佐次湾のヒルギ林マングロープツアー&遊歩道散策 ・半日・一日農業体験 ・東村シュノーケルツアー
大保		⑨ダム資料館(環境保全対策)	⑬ぶながや湖カヌー体験&大保川清流トレッキング ⑭森と水辺のノルディックウォーキング ⑮森と水辺のサイクリング(以上、おおぎまるととツーリズム協会が実施)	・ター滝トレッキング ・道の駅大宜味
金武		⑩ダム資料館(徳首ダム事業)		・ネイチャーみらい館 ・徳首川マングロープカヌー体験
安波			⑯亜熱帯ジャングルカヌーと川遊び(国頭ツーリズム協会が実施)	・やんばる学びの森(ツアープログラム、学びのゾーン、遊びのゾーン) ・比地大滝トレッキング

ダム管理施設を活用した取組み



ダム湖面や周辺の自然環境を活かした地域の活動



2.観光地等の地域支援【「道の駅」による地域活性化(物産,観光,防災)】 沖縄総合事務局

- 沖縄県内の「道の駅」は8駅（全国1,145駅 ※平成30年4月時点）。
- 地域の個性・魅力を活かして、物産、観光、防災面で、地域活性化に貢献。

「行ってよかった！道の駅ランキング2017」： 県内8駅中2駅がランクイン
2位「道の駅」いとまん、20位「道の駅」許田
(旅行口コミサイト「トリップアドバイザー」発表)



2.観光地等の地域支援【地域に根ざした「道の駅」】

- 「道の駅」では、そこでしか買えない、新鮮な地元特産品等を販売。
- 高齢者農家や地元高校との連携など、地元と密着した活動を推進（農家の育成や収入増にも貢献）。

- 「道の駅」で、**地産地消を促進するイベントを開催**
- 規格外農産物(イチゴ)をケーキに加工し販売、**農家の収益に寄与**



地産地消を促進するイベント開催
(宜野座村産業祭り)

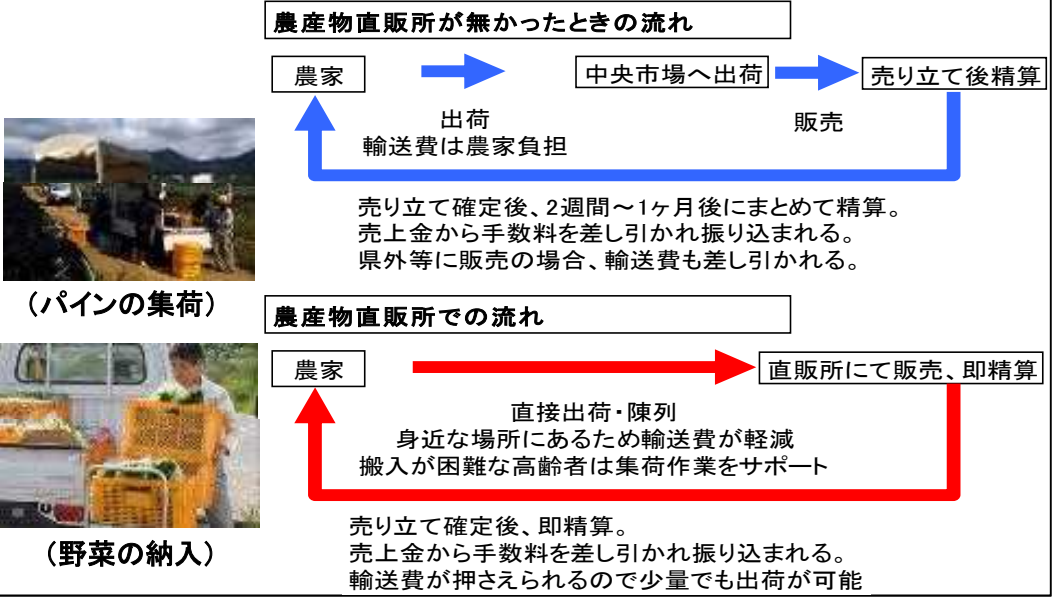


人気商品となった地元フルーツを使ったショートケーキ



規格外農産物を加工販売
地元農家の収益に寄与

- 高齢者農家支援として、「道の駅」職員による集荷作業を実施（「道の駅」ゆいゆい国頭、「道の駅」許田）
- ・輸送費軽減及び新たな収益の場の提供
- 農家の収益が増加することにより、安定して農業に従事することが出来、農業離れの歯止めを図る。



- 「道の駅」と大学が連携し、大学生のアイデアによる観光プランや情報発信手法の提案や新たな特産品の商品開発などを進める
- 地元農林高校と老舗菓子店による特産品を活用した商品開発（ちんすこうにアグー脂を使った「きんそう」）（「道の駅」許田）



名桜大学と「道の駅」と国道事務所との連携協定調印式



(地元高校生による商品の製造と販売PR)



- 地元特産品の販売（「道の駅」喜名番所を除く各駅）



(販わう販売所)



(野菜)



(魚)



(果物)



(地元特産・マンゴー)



(地元特産・パイン)

3.交通網の整備【那覇空港滑走路増設】

- 那覇空港滑走路増設事業については、平成26年1月に工事着手しており、現在は埋立工事、舗装工事を実施。
- 平成32年3月末に供用開始することをめざし、引き続き事業を推進。

○ 現況

- ・滑走路：3,000m
- ・旅客実績：（国内）1,752万人、（国際）364万人
（平成29年度速報値、過去最高）
- ・主要路線：（国内）156往復/日
（平成30年夏期ダイヤ）東京(31)、福岡(20)、関西(14)、中部(12)、
成田(7)、石垣(17)、宮古(14)等
（国際）228往復/週
ソウル(56)、台北(63)、上海(21)、香港(27)等
（貨物）55往復/週
成田(5)、羽田(5)、関西(5)、
上海(5)、香港(5)、ソウル(5)、台北(5)等
- ・国内LCC就航状況：ジェットスター・ジャパン（成田(4)、関西(2)、中部(1)）
ピーチ・アビエーション（関西(4)、福岡(2)）
バニラエア（成田(2)）

○ 空港整備事業の概要



安倍総理大臣による施政方針演説

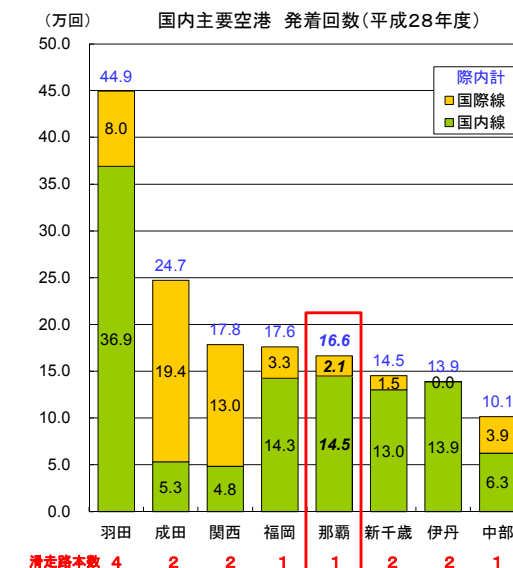
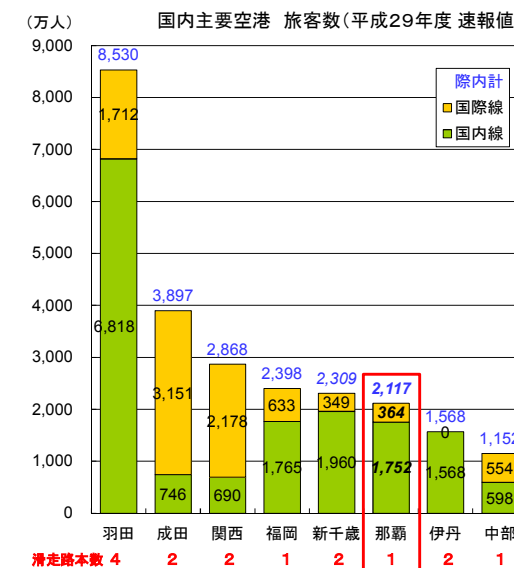
<H26.1.24 第186回国会>

- ・アジアと日本をつなぐゲートウェイ。それは沖縄です。
- ・アジアとの物流のハブであり、観光客を迎える玄関口として、那覇空港第2滑走路は日本の成長のために不可欠です。予定を前倒し、今月から着工いたしました。工期を短縮し、2019年度末に供用を開始します。

<H27.2.12 第189回国会>

- ・アジアとの物流のハブである沖縄では、那覇空港第2滑走路の建設を進めます。

那覇空港は、国内の滑走路1本の空港としては旅客数・発着回数とも第2位



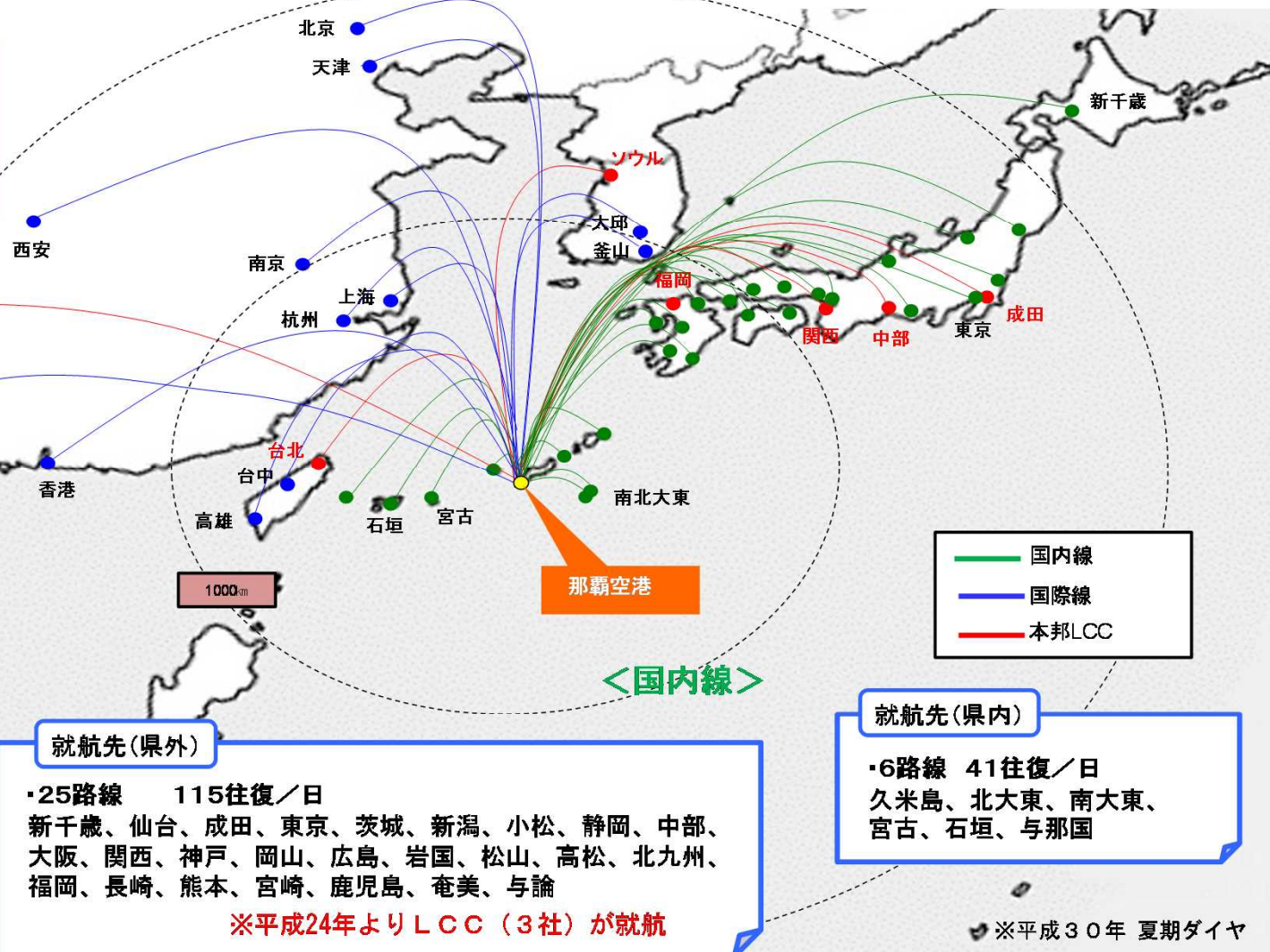
3.交通網の整備【那覇空港の就航路線】

- 国際線 15路線に就航。
- 沖縄県外の空港との間に25路線が就航。
- 沖縄県内の拠点となっており、県内の離島との間に6路線が就航。

<国際線>

就航先

・15路線 228往復／週
ソウル、釜山、大邱、北京、天津、上海、
南京、杭州、香港、西安、台北、台中、高雄
バンコク、シンガポール (H29.11月～)



3.交通網の整備【那覇空港 国際線ターミナル地域再編事業】

- 那覇空港では、国際航空需要の増加に伴う施設の狭隘化・老朽化に対応するため、平成21年度から国際線ターミナル地域再編整備を実施しており、国際線旅客ターミナルビルを国及び民間にて整備し、平成26年2月に供用を開始した。
- 供用開始後も国際線旅客数は急激に増加しており、国際線ターミナルビルにおいて混雑が発生している。
- 国際線需要の増加による混雑及び増設滑走路の供用により増加が見込まれる航空需要へ対応するため、エプロン拡張、国際線ターミナルビルの機能向上(CIQ施設、際内連絡施設)等に必要な整備を引き続き実施する。

国内線ビル、国際線ビル入国審査場の混雑状況

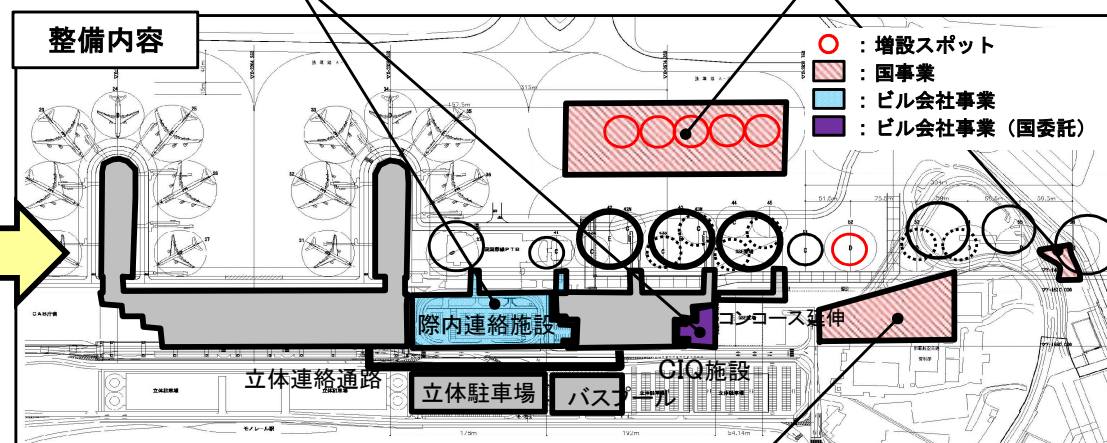
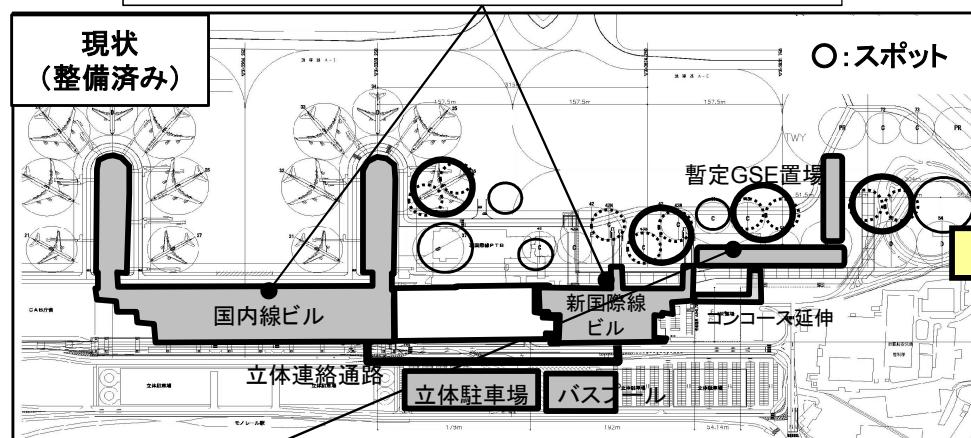


ターミナルビルの機能向上

国際線ターミナルビルの機能向上(CIQ※1施設、際内連絡施設)に必要な整備を実施し、ターミナルビルの旅客処理能力等を向上します。

エプロンの拡張

エプロン拡張を実施し、将来的に増加が見込まれる航空需要へ対応します。



暫定GSE置場の状況



※1 CIQ: 税関(Customs)、出入国管理(Immigration)、検疫(Quarantine)

※2 GSE: 地上支援機材(Ground Support Equipment)

GSE置場の新設

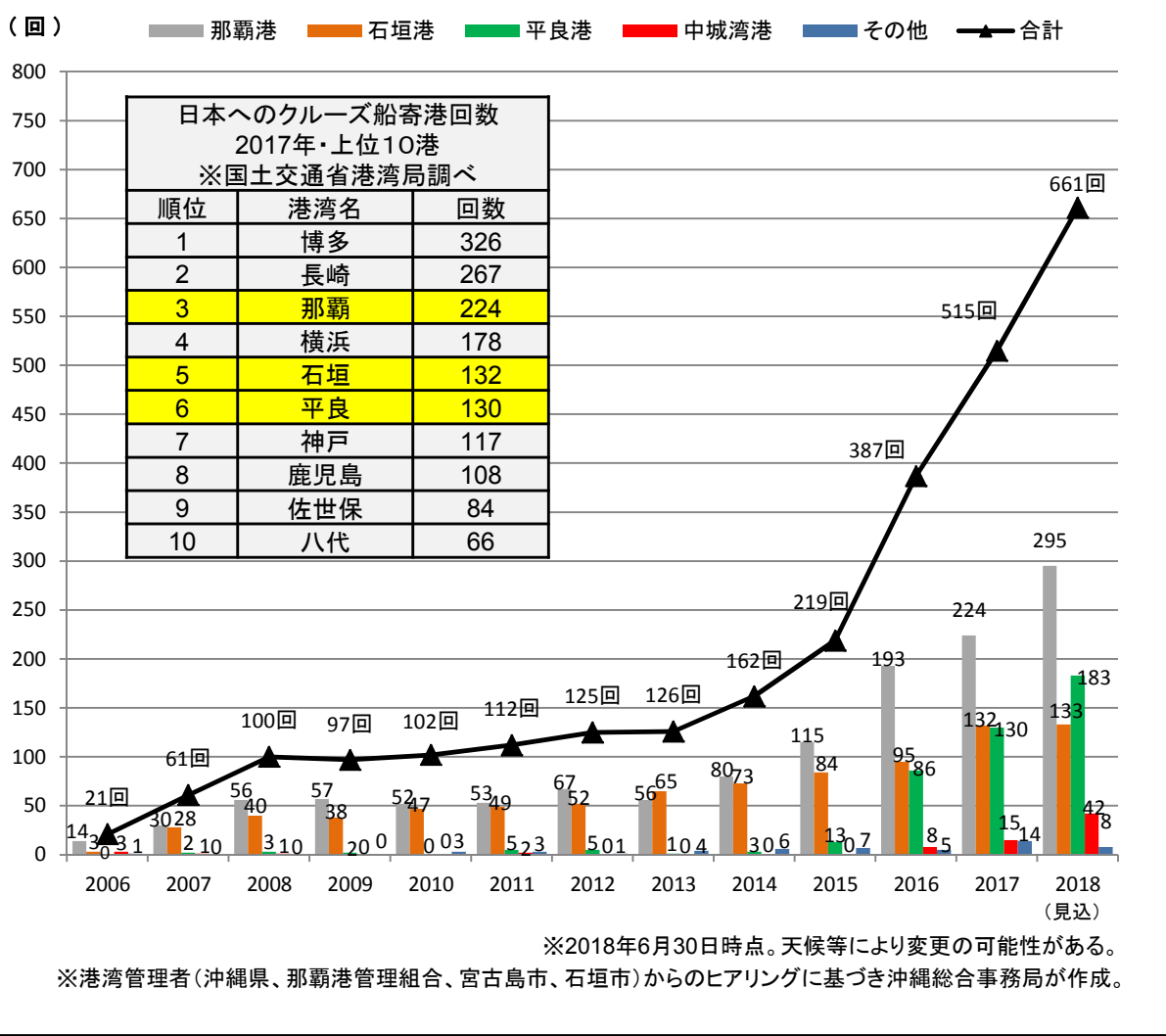
GSE※2置場を新設します。これにより、暫定GSE置場を航空機の駐機スポットとして使用できるようになります。

3.交通網の整備【寄港増加・大型化する沖縄のクルーズ船】

○沖縄へのクルーズ船の寄港回数は2017年に515回と過去最多を記録した。2018年の寄港数は661回となっており、前年より増加する見込み(2018年5月31日時点)。

○2017年のクルーズ船寄港回数において、上位10港に沖縄県の港湾が3港ランクインしている。

【沖縄へのクルーズ船の寄港回数の推移】



【沖縄へ寄港するクルーズ船の大型化】

・沖縄には、アジアに配船されているクルーズ船で最大クラスの「クアンタム・オブ・ザ・シーズ」(16万トン級、4,180人乗り)が寄港するなど、大型化が進行している。

※沖縄に寄港したクルーズ船に占める10万トン級以上のクルーズ船の割合 2016年:22%→2017年:37%

※沖縄に寄港している16万トン級クルーズ船
クアンタム・オブ・ザ・シーズ:168,666トン、全長347m
オベーション・オブ・ザ・シーズ:167,800トン、全長348m
ノルウェー جان・ジョイ:167,725トン、全長333m



クアンタム・オブ・ザ・シーズ【那覇港】
(総トン数:168,666トン、全長347m)



ノルウェー・ジョイ【那覇港】
(総トン数:167,725トン、全長333m)

3.交通網の整備【那覇港のクルーズ船の受入れ(既存岸壁の活用)】

- 那覇港のクルーズ船について、2016年は193回寄港、2017年は224回寄港し、大きく増加。
- 2017年は、クルーズ船の3隻同時寄港は計5回、2隻同時寄港は計34回を記録。
- クルーズターミナルや物流ターミナルなどを活用し、寄港増・大型化に対応。

9号岸壁南側にドルフィン2基(150m)を2017年に設置



10号岸壁北側にケーソン(50m)
を2018年に延伸。

第2クルーズバス計画箇所
(2016年11月港湾計画一部変更)

【国際コンテナターミナル】

水深13～15m、延長600m(300m×2バス)

2017年利用回数:42回

- ・16万トン級クルーズ船が利用
- ・2隻以上同時にクルーズ船が入港した場合に利用(16万トン級まで)。

那覇港国際コンテナターミナルに接岸する
「オペーション・オブ・ザ・シーズ」(16万トン級)



【旅客船ターミナル】

(若狭バス・2009年9月供用開始)
水深9m、延長340m(計画)

2017年利用回数:176回

- ・13万トン級までのクルーズ船
が優先的に利用

那覇港旅客船ターミナルに接岸する
「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」(13万トン級)

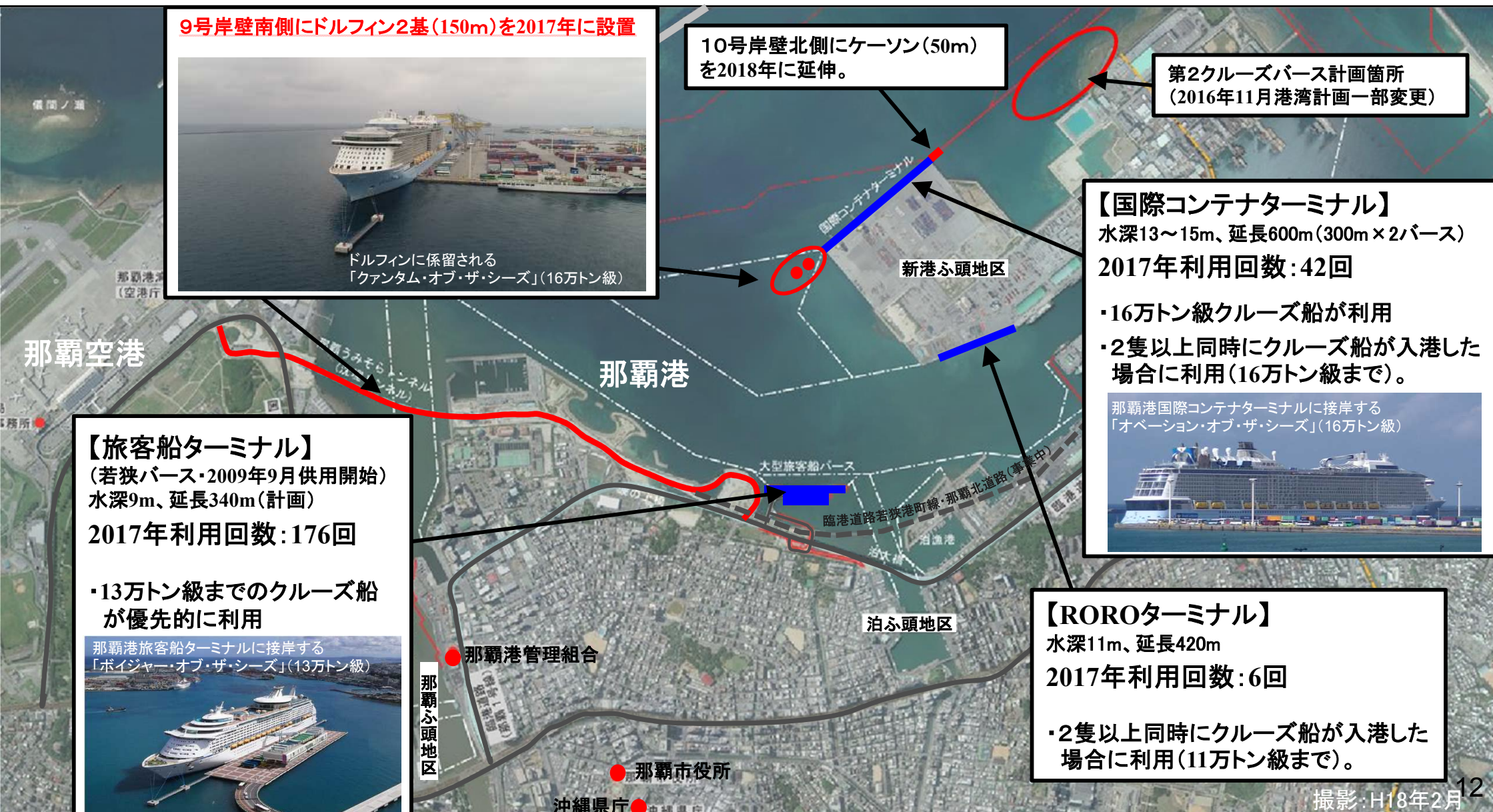


【ROROターミナル】

水深11m、延長420m

2017年利用回数:6回

- ・2隻以上同時にクルーズ船が入港した
場合に利用(11万トン級まで)。



3.交通網の整備【石垣港のクルーズ船の受入れ】

- 石垣港においては浜崎町地区の貨物を取り扱う岸壁にて7万トン級までのクルーズ船を受入れており、それを超えるクルーズ船については沖泊にて受入れている。
- 現在、整備に取り組んでおり、**2018年4月21日に一部を暫定供用し、7万トン級までのクルーズ船を専用岸壁にて受け入れを開始した。**
- また、近年のクルーズ船の大型化を踏まえ、石垣港地方港湾審議会(2017年5月17日)を経て岸壁スペックを水深9m・延長340mから**水深10.5m・延長420m**に変更したところ。これにより、**20万トン級のクルーズ船も受け入れ可能となる予定。**

現
状



対
応
方
針



- 第190回国会における安倍内閣総理大臣 施政方針演説(2016年1月22日)
- ・沖縄・石垣港を訪れる大型クルーズ船は、この3年で2倍近くに増えました。
- ・町で石垣牛を食べ、お土産に黒糖を買う。周辺の島へと足を伸ばす観光客もいて島々が沸いています。2年後(2018年春)の供用開始に向け、新しい岸壁の整備を進めます。アジアとのハブである沖縄の成長の可能性を開花させるため、今年度を上回る予算を確保してまいります。

3.交通網の整備【中城湾港のクルーズ船の受入れ】

- ・2016年に、新港地区西ふ頭において5年ぶりにクルーズ船が寄港した。
- ・2017年7月までは5万トン級までのクルーズ船が受け入れ可能であったが、近年のクルーズ船の大型化を踏まえ、岸壁の改良(係船柱や防舷材の強化)や航行安全検討を行い、2017年8月より16万トン級のクルーズ船が受け入れ可能になった。なお、2018年3月に「**クァンタム オブ ザ シーズ(16万トン級)**」が初寄港した。



クァンタム オブ ザ シーズの寄港状況(2018年3月24日)

3.交通網の整備【平良港のクルーズ船受入れ(国際旅客船拠点形成計画書の概要)】

連携する船社	Carnival Corporation & plc Asia Pte. Ltd. (カーニバル社)
拠点形成の目標	○供用開始年には東アジアの主要な寄港地を目標とし、供用開始後10年以内にフライ&クルーズの拠点港を目標とする。
寄港回数の目標	運用開始年(H32年):250回 目標年 (H38年):310回

クルーズ船専用岸壁の利用に係る考え方

○クルーズ船専用岸壁並びに旅客ターミナル等が供用された場合、カーニバル社は、他者に先立ち、同岸壁の利用を優先的に予約できる。

優先的に利用予約できる日数 : 年間300日

優先的な利用予約の存続期間 : 20年間

優先的な利用予約の実施時期 : 寄港を予定する年(暦年)の前々年の7月1日から12月31日まで

○係留施設の優先的な予約を行う期日以降に行う同岸壁の利用予約については、カーニバル社と他の船社を平等に取り扱う。

その他、国際旅客船拠点形成計画の実施のため以下に取り組む。

○平良港から発生集中する二次交通等の渋滞緩和に向けた取組

○行政・民間など様々な団体から構成される「宮古島クルーズ客船誘致・受入環境整備連絡協議会」における、交通量に関する調査及び渋滞対策に関する協議を定期的に行う取組

国際旅客船取扱埠頭高度化事業

【国が実施する事業】

大型クルーズ船(対象船舶:14万トン級)が寄港可能となるクルーズ船専用岸壁、航路泊地、泊地及び臨港道路の整備

【カーニバル社が実施する事業】

旅客ターミナルビルの整備



3.交通網の整備【本部港のクルーズ船受入れ(国際旅客船拠点形成計画書の概要)】

連携する船社	ゲンティン香港
拠点形成の目標	国際クルーズ拠点を形成することにより、北部地域の豊かな自然環境を活用したエコツーリズムや海洋レジャーの促進、新たな観光ルートの形成など、沖縄本島北部地域の振興に資する観光拠点を目指す。
寄港回数	運用開始年(H32年):88回 目標年(H42年):104回

国際旅客船取扱埠頭高度化事業

○本部地区岸壁(整備主体:沖縄県)

2020年に竣工予定の20万トン級クルーズ船(全長343m、喫水9.5m、乗客定員約5,000人)対応するための岸壁整備

岸壁延長:420m(増深改良220m+延伸200m)

岸壁水深:10.5m

○旅客施設(整備主体:ゲンティン香港)

CIQホール、待合所、観光案内所等を有する2,400㎡の旅客施設を整備(詳細は協議の上決定)

岸壁の利用に係る考え方

○ゲンティン香港は、他者に先立ち、岸壁の利用を優先的に予約できる。

優先予約可能日数: 年間150日

(H32は、年間100日)

優先予約存続期間: 15年間

優先約実施時期: 寄港を予定する年(暦年)の1年6カ月前から1年前まで

○岸壁の優先予約実施時期以降は、他の船舶の利用受付を開始する。

その他、国際旅客船拠点形成計画の実施のため以下に取り組む。

○クルーズ船寄港時に想定される交通混雑対策として、観光バス・タクシーが一度に集中することのないよう港の近辺に、バス待機所等を確保できるように検討する。



3.交通網の整備【竹富南航路の整備】

- 竹富南航路は、八重山諸島の中心である石垣島と小浜島、黒島等の周辺の島々を結ぶ唯一の航路である。住民の生活航路として、また観光航路として重要な役割を果たしている。
- 当該海域は浅瀬が多く日中のみの運航に制限されており、地域住民や来訪者が利用する船舶航行の安全を確保する必要がある。
- 国内でも有数のサンゴ礁海域である石西礁湖に位置するため、環境へ配慮した取り組みを行っている。

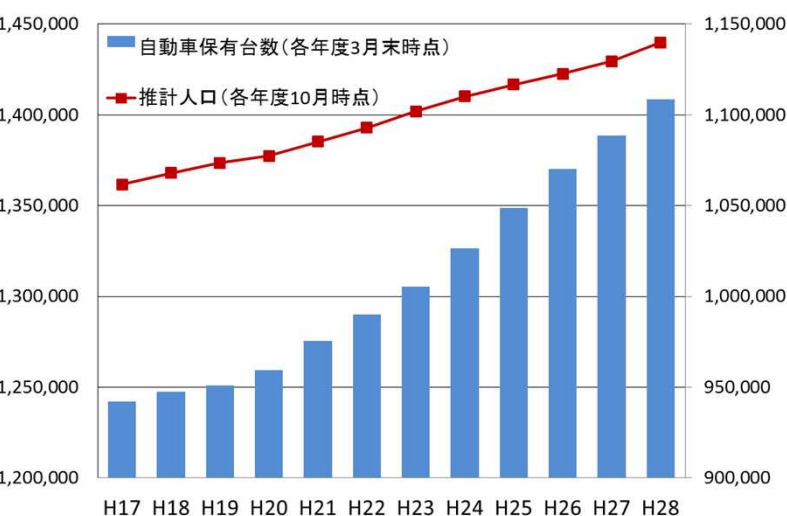
【竹富南航路】住民の生活航路、観光航路として島々を結ぶ唯一の航路



3.交通網の整備【沖縄の道路交通の現状(1)】

○人口・自動車数の増加に伴い、容量不足のため交通混雑が顕在化(那覇市内は全国ワースト1)。
 ○観光客も含め、県民の足が自動車に依存しており、道路ネットワーク整備とソフト対策が急務。

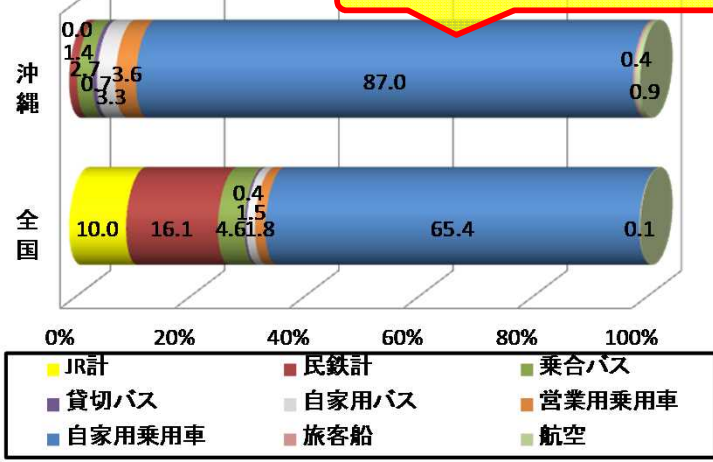
◆沖縄県の人口増加に伴い、自動車保有台数も増加



【沖縄県の推計人口と自動車保有台数の推移】

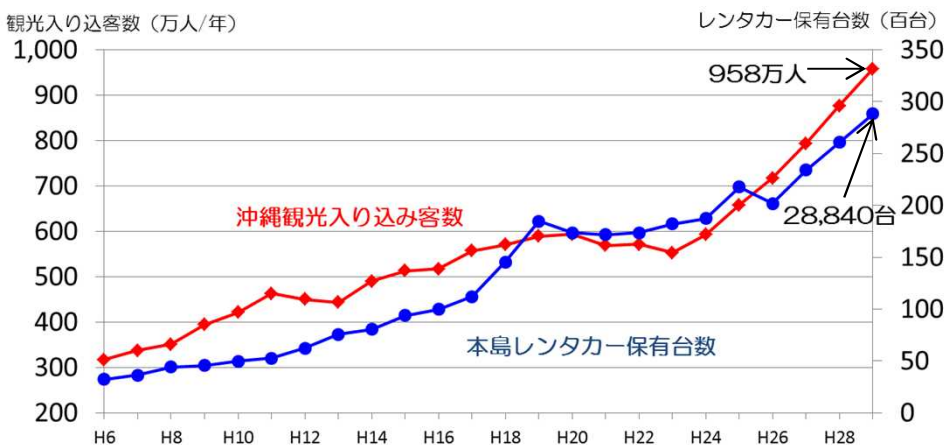
◆過度な自動車依存

約87%が自動車依存



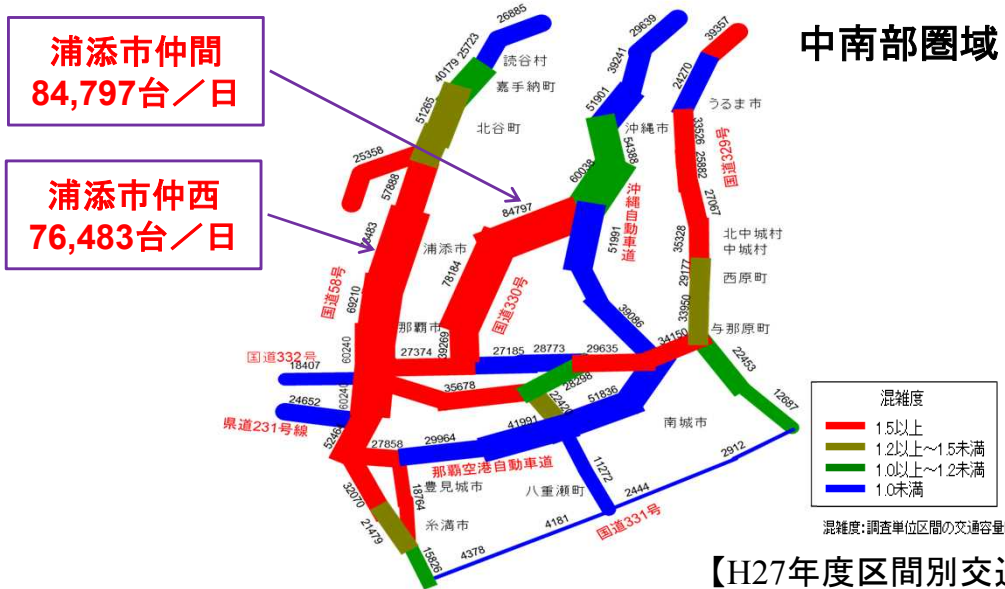
【交通手段分担率(沖縄・全国)】
 (データ:H25号国交省旅客地域流動調査)

◆観光客の移動手段はレンタカー



【県外観光入込客数とレンタカー保有台数の推移】
 (データ:運輸要覧(H29.12運輸部)、観光要覧(H30.4沖縄県))

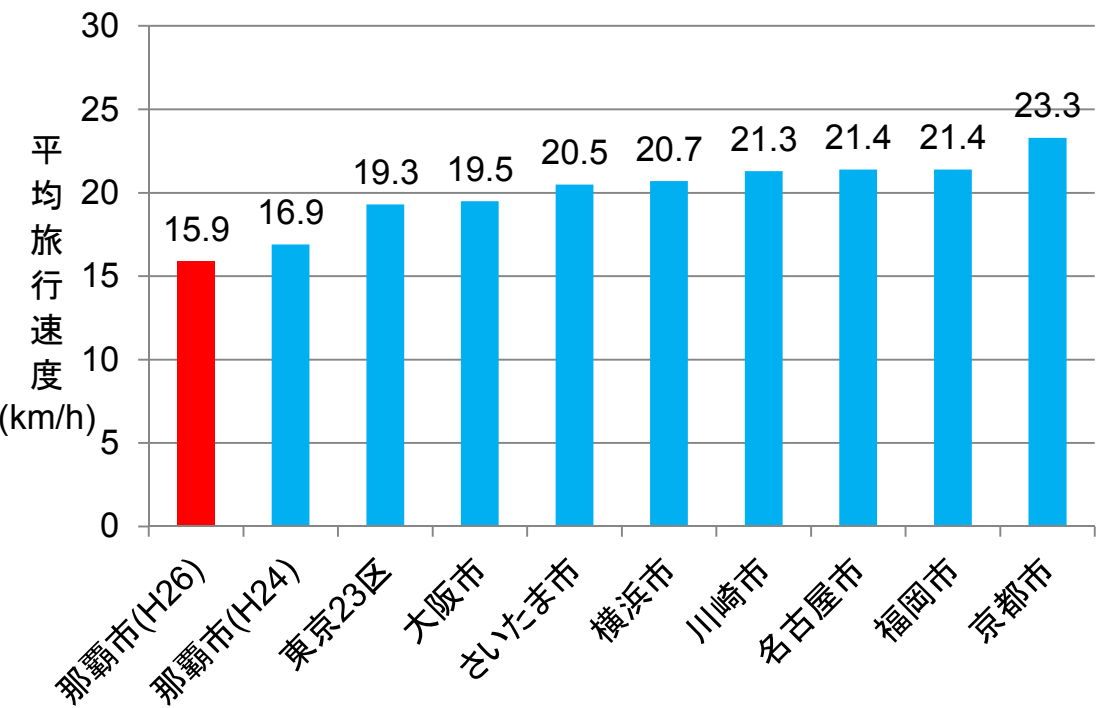
◆中南部県域の主要幹線は容量オーバー



【H27年度区間別交通量図】

3.交通網の整備【沖縄の道路交通の現状(2)】

◆那覇市内の速度は全国ワースト1



【平日混雑時平均旅行速度の比較】
(データ:H24プローブデータ)



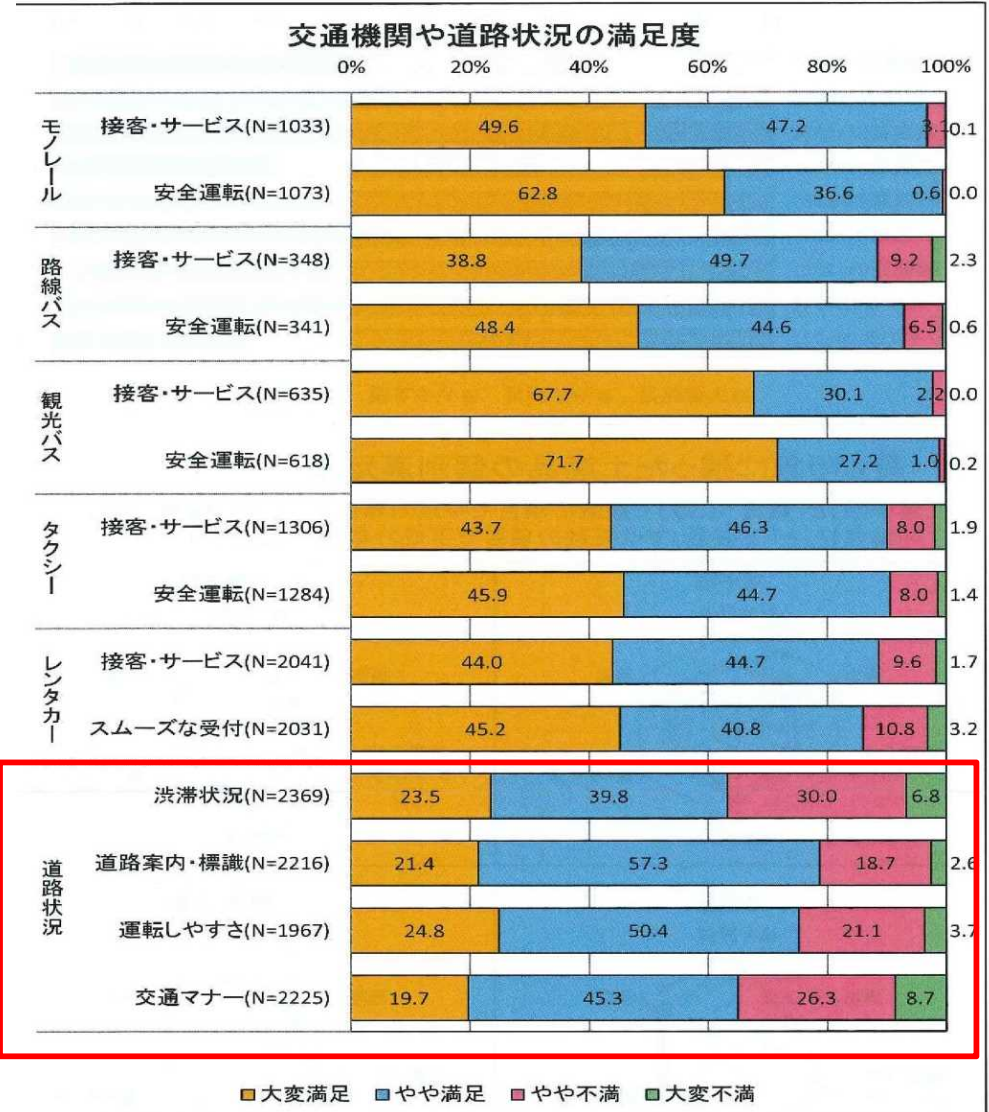
R58号 那覇市前島



R58号 那覇市泊

◆ 交通機関や道路状況の満足度

- 「道路状況」については全体的に不満を感じる比率が多い。特に『渋滞状況』や『交通マナー』では“やや不満”“大変不満”が3割を超える。
- 「観光バス」は『接客・サービス』『安全運転』ともに他に比べ“大変満足”の比率が多い。



■ 大変満足 ■ やや満足 ■ やや不満 ■ 大変不満

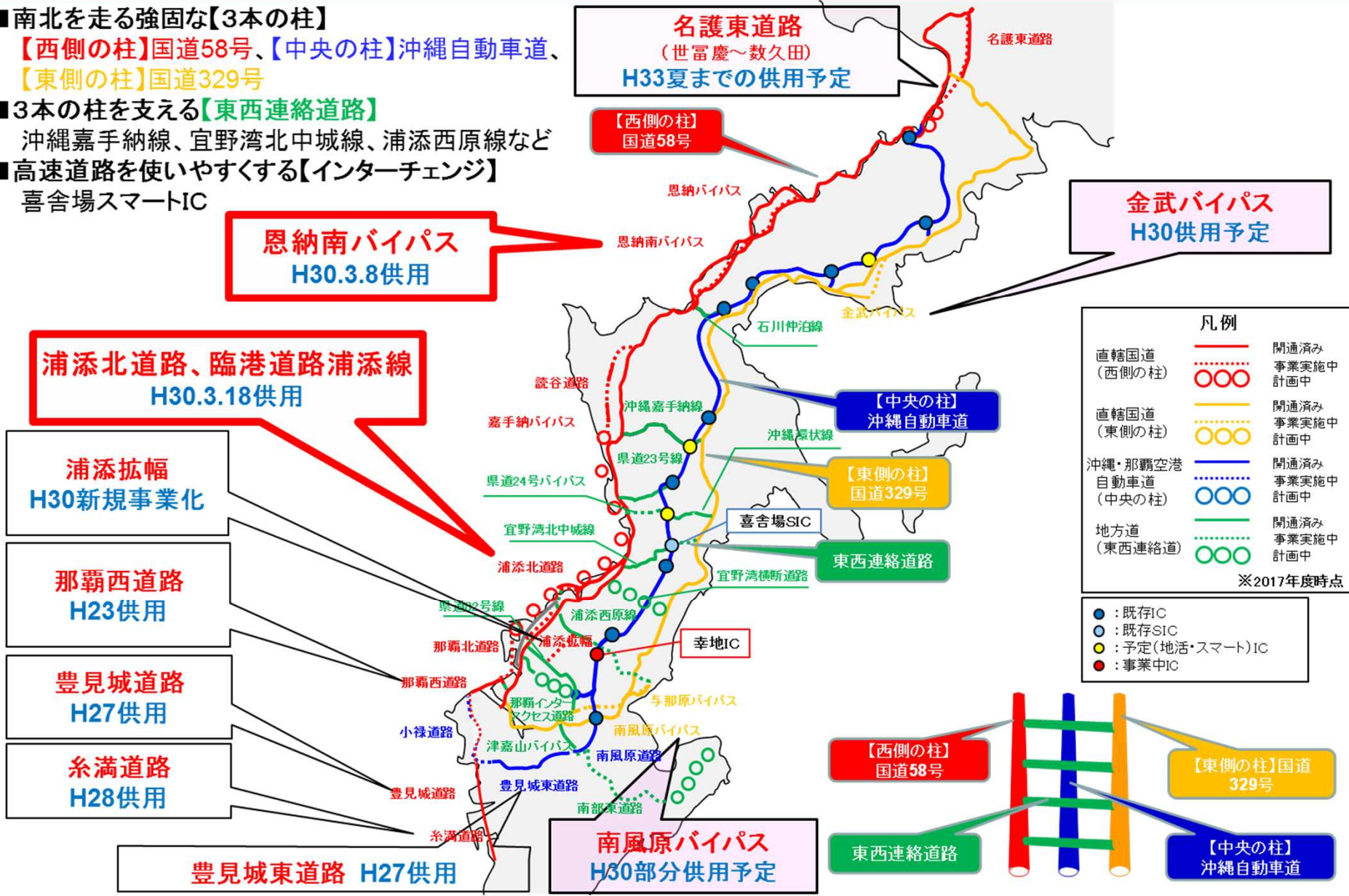
出典: 沖縄観光の満足度(平成24年度 観光統計実態調査(沖縄県))

3.交通網の整備【道路ネットワーク(ハシゴ道路)】

【ハシゴ道路】

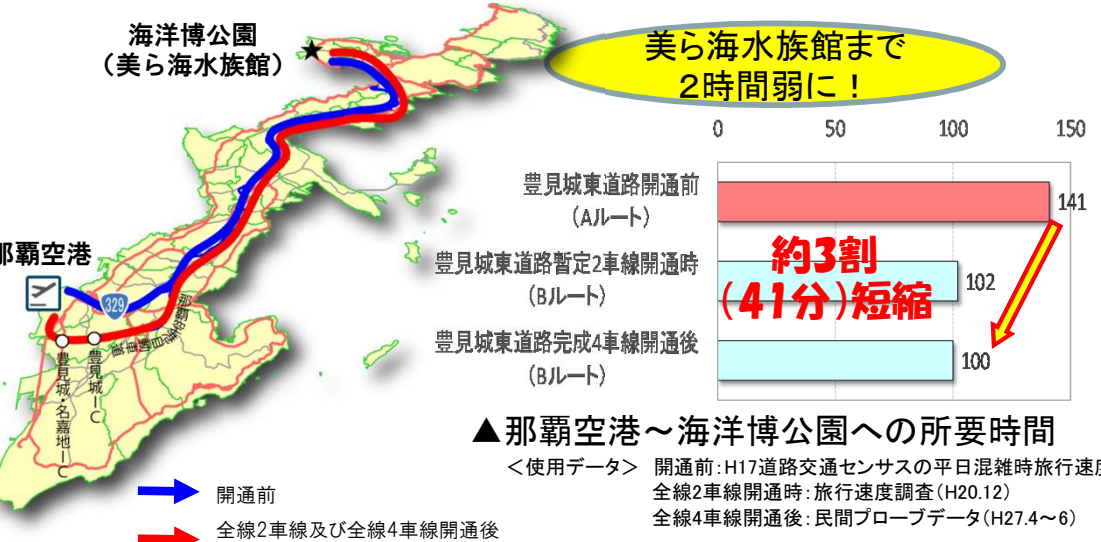
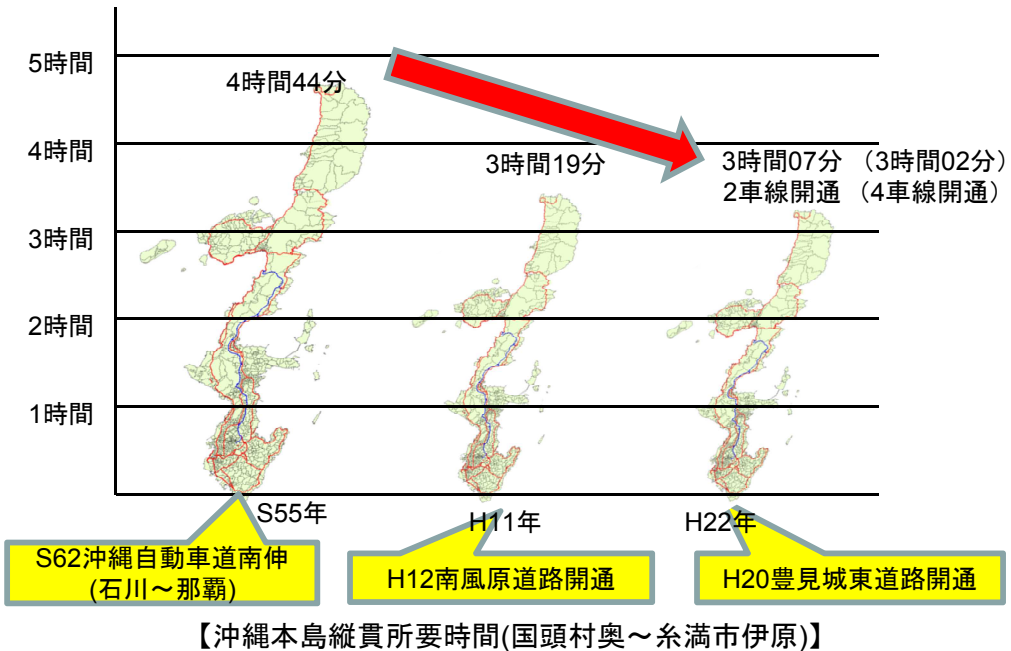
- 長期間を要する事業ほど、段階的な進捗と効果の発現を示すことが重要
- 3本柱において、交通配分にアンバランスが発生(沖縄自動車道への交通を配分)
- 交通の集中する西海岸、特に2環状と放射道路が重なる箇所を重点整備

- 南北を走る強固な【3本の柱】
 - 【西側の柱】国道58号、【中央の柱】沖縄自動車道、【東側の柱】国道329号
- 3本の柱を支える【東西連絡道路】
 - 沖縄嘉手納線、宜野湾北中城線、浦添西原線など
- 高速道路を使いやすくする【インターチェンジ】
 - 喜舎場スマートIC



3.交通網の整備【観光振興を支援する道路整備】

- 道路ネットワーク整備により、沖縄本島北端から南端までの所要時間が短縮し、観光振興にも寄与。
- 沖縄の玄関である那覇空港からの時間距離が短縮し、行動範囲が拡大。
- 渋滞が緩和し、スムーズに観光地巡りが可能に。



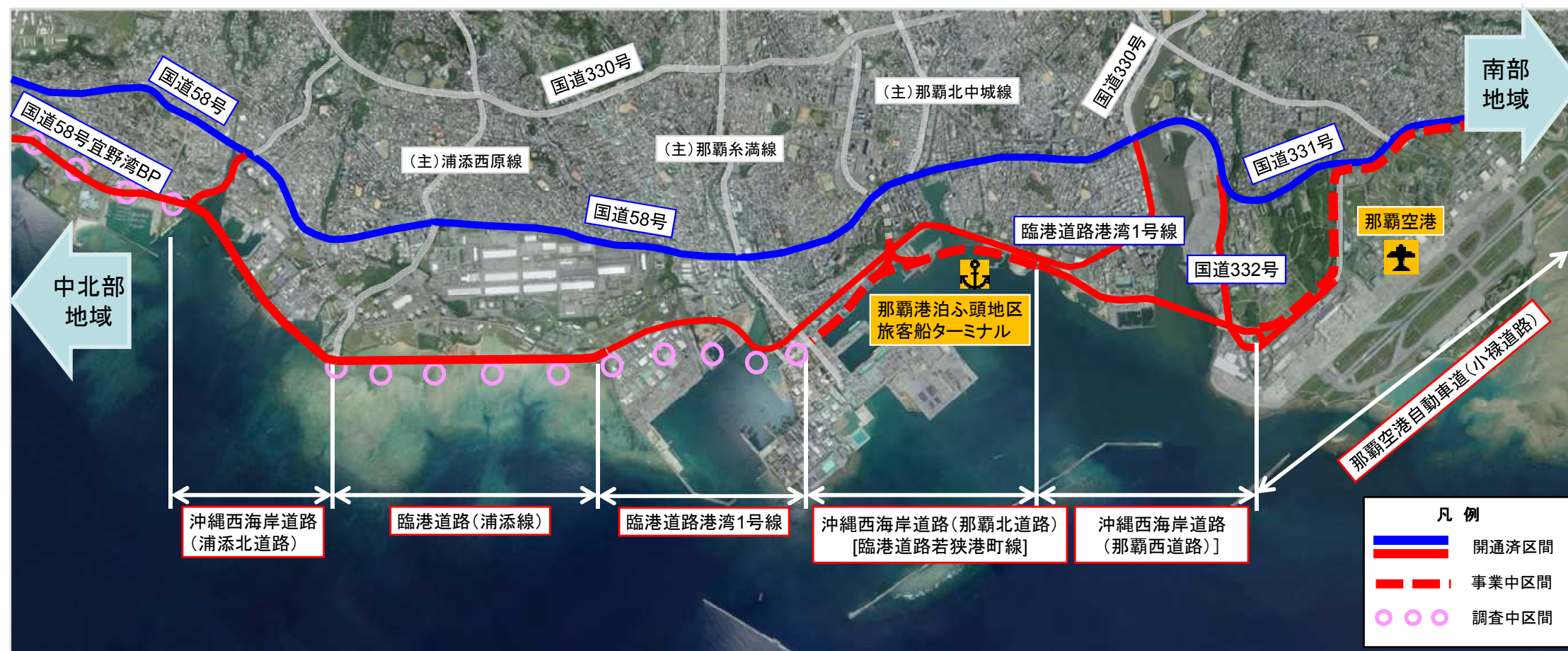
3.交通網の整備【那覇都市圏における外郭環状道路の機能強化】

○沖縄西海岸道路及び臨港道路により、西海岸地域の外郭環状道路の機能を強化する。

○那覇空港や那覇港を含む南北の移動の強化及び、那覇都市圏の渋滞の緩和により、全国渋滞ワースト1位※の脱却に貢献する。

※平日混雑時の平均時速は全国主要都市の中でワースト1位。

《事業位置図》



4.情報発信の拡充【観光情報満載の「道の駅」】

- 「道の駅」は、休憩やショッピングと合わせて、観光・地域情報を入手するのに最適。
- 「道の駅」は、地元が知る地域の名所等を活かした観光・地域情報発信のキーステーション。

○ 観光案内

- ・観光案内人が常駐し、宜野座村の観光名所を情報提供（「道の駅」ぎのざ）



○ 離発着情報の提供

- ・那覇空港に近接しており、出発までの空き 時間を利用して、訪れる観光客も多いため、JAL、ANA等の飛行機発着情報などを提供（「道の駅」豊崎）

離発着情報提供

便名	出発地	定刻	空席	備考	到着
901	東京	09:00	08:58	手荷物受取中	
1782	石垣	09:05	08:57		
872	久米島	09:15	09:02		
511	東京	09:20	09:00		
51	福岡	09:35	09:23		
552	宮古	09:40	09:36		
133	成田	09:40	09:26		
600	石垣	09:45	09:43		



○ 道路情報・観光情報の提供

- ・タッチパネルによる道路・観光情報提供など役に立つ情報が満載（各駅）



- 展望台から極東最大の嘉手納基地への飛行機の離発着が一望でき、多くの観光客や修学旅行生が訪問（「道の駅」かでな）

嘉手納基地



道の駅の展望台

4.情報発信の拡充【進化する「道の駅」(ゲートウェイ型、地域センター型)】 沖縄総合事務局

- ドライバーの休憩施設として生まれた「道の駅」は、まちの特産物や観光資源を活かしてひとを呼び、地域にしごとを生み出す核へと独自に進化。
- 「道の駅」による地方創生拠点を形成し、「活力を呼び、雇用を創出、地域の好循環」を目指す。
- 「道の駅」の機能強化を図るため、地域活性化の拠点となる先駆的な取組を重点「道の駅」として「道の駅」ぎのぞを選定し、重点的に支援していく。

○ゲートウェイ型〔地域外から活力を呼ぶ〕

インバウンド観光（観光で人を呼ぶ）

外国人ニーズの高いサービスを提供、訪日観光を促進

- 外国人案内所、免税店、無料公衆無線LAN、EV充電設備、海外対応ATM設置 等

【現在の状況】

- 無線LAN(ゆいゆい国頭、おおぎみ、許田、ぎのぞ、かでな、喜納番所、豊崎、いとまん)
- EV充電器(ゆいゆい国頭、許田、いとまん)

無料公衆無線LAN



観光総合窓口（観光で人を呼ぶ）

地域の観光総合窓口として、地域の価値・魅力を向上

- 地域全体の観光案内 等

【現在の状況】

- 宜野座村の観光案内(ぎのぞ)
- 染め織物[ウージ染め]体験(豊崎)
- 体験機会の窓口(ゆいゆい国頭)



宜野座村の観光案内(ぎのぞ)

地方移住等促進（移住で人を呼ぶ）

地方移住相談や移住体験ツアー窓口の設置、ふるさと納税の情報提供等により、移住を推進

- 地方移住のワンストップ窓口、ふるさと納税の情報提供 等

○地域センター型〔地域の元気を創る〕

産業振興（特産品で盛り上げる）

地域特産品を活かしたオリジナル商品開発・販売、観光資源のパッケージ化等 による観光ニーズの呼び込み

- 地域特産品のブランド化、6次産業化、直売所の設置 等

【現在の状況】

- オリジナル商品開発・販売(許田)
- 直売所の設置(ゆいゆい国頭、おおぎみ、許田、ぎのぞ、かでな、豊崎、いとまん)



オリジナル商品の開発・製造・販売(許田)

地域福祉（「小さな拠点」をつくる）

多様な住民サービスを提供、地域を支える小さな拠点

- 診療所、役場機能の提供、地域公共交通ネットワーク乗継拠点、高齢者住宅の併設 等

防災（防災力を強化する）

災害時に高度な防災機能を発揮、地域の防災拠点化

- 広域支援の後方支援拠点、防災教育等

【現在の状況】

- 支援物資集積所、非常時電源、非常階段の設置(許田)
- 防災拠点施設を整備(いとまん)



非常階段(許田)

○地域活性化の拠点を形成する重点「道の駅」

【全国モデル「道の駅」】

特定テーマ型モデル「道の駅」

【重点「道の駅」】

【重点「道の駅」候補】

地域活性化の拠点として、特に優れた機能を継続的に発揮していると認められるもの(H26選定:6箇所)

特定テーマにつて、「道の駅」の質的向上に資する全国の模範となる取組を行い、その成果が認められるもの(H28住民サービス部門:6駅)

地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取組が期待できるもの(H26・H27選定:73箇所)

地域活性化の拠点となる企画の具体化に向け、地域での意欲的な取組が期待できるもの(H26選定:49箇所)